



納税と還元

大田区立馬込中学校 二年 半田 縁思

世間では、税金に対して否定的な意見が多く見られる。税の作文を書く上での資料を見ると、「税金とは私たちが安心な生活を送る上で個人や民間団体だけでは提供できないサービスを行うため、国民が負担し合う経費を税金と言う」とある。つまり、税金とは社会をより良くするために国民が負担する経費ということだ。税金に対して良く思っていないような意見もあると思う。自分たちがその経費を負担することに抵抗がある人はいないとは思わない。しかし、納税をするということは、社会だけでなく、回り回って自分が生きやすい環境を作るということに他ならないと思う。

今の時期に私たち中学生と密接に関わる、「小・中学校などの学校教育のため」の税金について考えたいと思う。2の項目を見ると、大田区の予算が一万円の時、「小・中学校などの学校教育のため」の税金は約千円である。つまり、国の予算の十パーセントほどが小・中学校のために回されている。

この夏に、私は区が主催する中学校生徒海外派遣としてアメリカへ行ってきた。それは、区の予算の十パーセントの使い道だ。区の税金で外国へ行かせてもらえたのだ。海外派遣では、あらゆるアメリカの有名な

スポットを訪れた。また、それだけではなく、特別な研修や、海外派遣ではないと立ち入ることが出来ない場所にも入って見学することが出来ない場所にも入って見学することが出来た。このような貴重な体験をさせてもらったことを通して、私は区の税金の用途を知れた。

また、大田区では給食費も無償である。区の税金が小・中学生のために活かされているからこそ、私たちは美味しい給食を毎日不足なく食べ続けることが出来ているのだろう。私たち中学生の送る学校生活の大部分が、税金に助けられている。

このように、税金の使われ方の一つを取ってみても、たくさんの活用がされて、生活を豊かにしていると分かった。納税をすれば、それは必ず区民へと還元される。そのことを知れば、税金に対して否定的な意見は減るのではないだろうか。おそらく、これは国税への意見だろう、税金の項目の追加をすることで、負担額が増えてしまうことへの懸念も含めた意見なのだと思う。しかし、国税は、区税よりも更に上回った還元をされると思う。そのため、より良い街にするためには税金は必要だと理解を集めれば、意見は肯定的なものへと変わるのではないだろうか。

また、大田区は「SDGs 未来都市おた」として地域の中では環境へのやさしさを掲げている。例として1では「水素を活用した超効率燃料電池の区施設への先駆的導入」とある。これから、大田区は区民だけではなく、環境への還元がされる。税金のありがたみを感じ、納税とその還元を意識していきたい。